

令和4年度第1回伝国の杜運営協議会議事録

- 1 日時 令和4年8月3日（水）午後2時30分～午後4時30分
- 2 場所 伝国の杜1階 第1、第2楽屋
- 3 出席者
（委員） 7名出席
地主 忠亮 今野 孝義 前山 みゑ子 山根 秀樹 永井 学
布施 賢治 山村 洋子

（事務局） 7名
種村信次（理事長） 島津眞一（副理事長兼博物館長） 渡部洋己（常務理事兼事務局長）
阿部哲人（主査） 安部理絵（主査） 寒河江大輔（総務担当主査） 小松史織（主事）
- 4 開会
- 5 理事長あいさつ
博物館では、春の特別展「戦国京都と上杉家」で15,294人の入場があり、コロナ禍でありながら、近年では非常に良い成績であった。貴重な資料・設備を持つ施設として、多くの方に見て頂ける運営を行うことが当館の務めである。今後も精進していきたい。
民営博物館は、運営資金確保のため入館者数アップに尽力しており、お客様に喜んでもらうために展示はもちろん、特色ある収蔵品を活用したグッズの製作等に注力しているとのこと。当館は民営ではないが、皆様に喜んでもらえる運営を目標とする点は同じである。本日の議題にも挙げる新しい評価システム等を活用しながら状況の把握に努め、前向きな運営につなげていきたい。よりよい運営のため、本日も様々ご意見を願います。
- 6 会長あいさつ
コロナがなかなか落ち着かず、我々を取り巻く諸状況が目まぐるしく変わり先の見えない中であるが、文化事業やその運営は常に前向きに考えていかなければならない。今回、良い知恵、前向きな意見を活発に交わし、より良い方向へつなげられればと思う。
- 7 報告
(1) 令和3年度の事業概要と令和4年度の事業計画について
概略について事務局から説明。

8 意見交換

(1) 令和4年度の事業評価について

趣旨を事務局から説明。昨年度までの評価方法を見直し、今年度からは新たに KGI（重要目標達成指標）と KPI（重要業績評価指標）を用いた評価方法を実施することにした。

(委員) コロナ禍で入館者数が減少する中、難しい状況での模索という意味でも新しい見方で評価する当システムは試す価値があると思う。こういった客観的な評価はこれから必要になってくるし、まさしく民営的なアプローチをする上でこういった指標が重要。各 KPI を一つずつ取り組むことで、入館者数を増加させるための良いきっかけになると思う。今年度の評価数値が出たら、ぜひ一緒に課題や改善点を考えていきたい。

(事務局) 力強く有難いご意見。こういった新しい手法を、一つのツールとして活用し、事業の改善につなげていきたい。

(2) 市民との協働を進めるための方策について

趣旨について事務局から説明。

(委員) サポーターは、興味・関心のある分野でなければなかなか取り組んでみようと思えない。参加することによる楽しみや知識の深まりなどを発掘していかないと増えづらいと考える。また、「サポーター」という名称だと、無償ボランティアなのか収入を伴う活動なのか、またどういった活動をしているのか、外からは分かりづらい印象を受ける。

ファンクラブは 20～30 代の会員が少ないということだが、今後この層をターゲットにして会員を増やしたいということか？

(事務局) ファンクラブについてはターゲットを絞り込むわけではないが、現状の会員数を鑑みると、今後は 20～30 代の会員を重点的に伸ばしていきたいと考えている。会員数増のためにファンクラブの入会メリットを上手く宣伝できればと思うが、ターゲットを絞った具体的な広報には至っていない。

(委員) 博物館ではワークショップ等、子どもを主な対象とした事業活動を展開している。ファンクラブ等の入会にすぐに結びつくものではないだろうが、こういった企画に小さいうちから触れるのは大切だと思う。子どもだけでなく、連れて来た親世代も巻き込んだ企画があると、それぞれの取り組みにつながる展開があるのではないか。

(委員) 一般市民はサポーターの活動内容を知らないと思う。「洛洛案内人」の場合は活動時着用するベストがあるが、他分野で活動す

るサポーターにもユニフォームがあれば、存在や活動を知ってもらいやすくなるのではないか。

ギャラリートーク等の展示解説は現在コロナ対策で人数制限が設けられており、定員オーバーで参加できる枠が少なく、もったいなく感じている。

昨年、博物館で新潟県関川村の渡邊家の資料を借用し展示したことをきっかけに、関川村の方々の来館が増えたりと交流が広がってきている。こういった交流がぜひ一般市民まで広がると良いと感じる。

お客様が、一般的に博物館は月曜日休館であることが多い中、上杉博物館の第4水曜日休館を知らずに当日来館し非常に残念がっていた。

(事務局) サポーターの活動を知ってもらう取り組みはまだ不足している部分がある。今後方法を検討していきたい。また、展示解説で人数制限を設けている件は大変心苦しく思っている。コロナの状況を注視しながら制限解除や実施回数の加増を検討していきたい。休館日については市の条例改正等も必要になってくるため、今後の検討事項とさせて頂きたい。

(委員) ファンクラブやサポーターについての触れ込みを、学校等へ直接行ってみてはどうか。分野に関連するような部活動を運営している学校もあると思うので、ピンポイントで働きかけてみると多少反応が期待できるかもしれない。若い世代の来館を増やすための活動はぜひ行ってほしい。

(事務局) サポーター立ち上げの折には市報や新聞の他、学校や企業に向けて広報活動を実施したが、活動分野の定例化に伴い告知の機会も減り、最近は簡易チラシの設置や不定期の市報掲載のみであった。

(委員) ファンクラブの世代別の会員割合を見てみると、60～70代が6割を占めている。興味関心や時間的・金銭的余裕等を鑑みると、どうしても核になるのはこの世代なのでは。若い世代への働きかけは継続しつつも、コアになる世代へのアプローチとしてシルバー料金を設定するなどの方法も考えられる。

(委員) 企画展「アーツ&クラフツとデザイン」では、欧米の美術史の流れの最後に米沢出身の本間久雄との関連が触れられており、興味深く見学した。郷土との関わりやつながりが見えると、米沢にいながら世界に目を向けられ、考えが深まり大変良い。若い世代の来館増の方策として、「無料の日」の際に市報等で親子での来館を呼び掛けてみてはいかがか。また、子ども向けの

ワークショップはあるが、大人向けのワークショップも、興味のある人がいるのではないか。

現在、全国にある博物館の中には、無料の博物館も多くあるようだ。こうした中で、有料であるからには充実した時間を過ごしてもらえそうな内容・接客であることが大切だと思う。年齢を経て、関心・知識の深まりや考え方・見方が変わり博物館や文化的な催しに興味が出るということはあるが、幼いうちから触れておくことも大切であると感じる。

(3) その他

(事務局) 今年度開催事業の事業評価について、引き続きご協力をお願いしたい。

9 常設展視察

鷹山シアター新規映像「上杉鷹山 ふたたびの改革」を視聴。

以 上